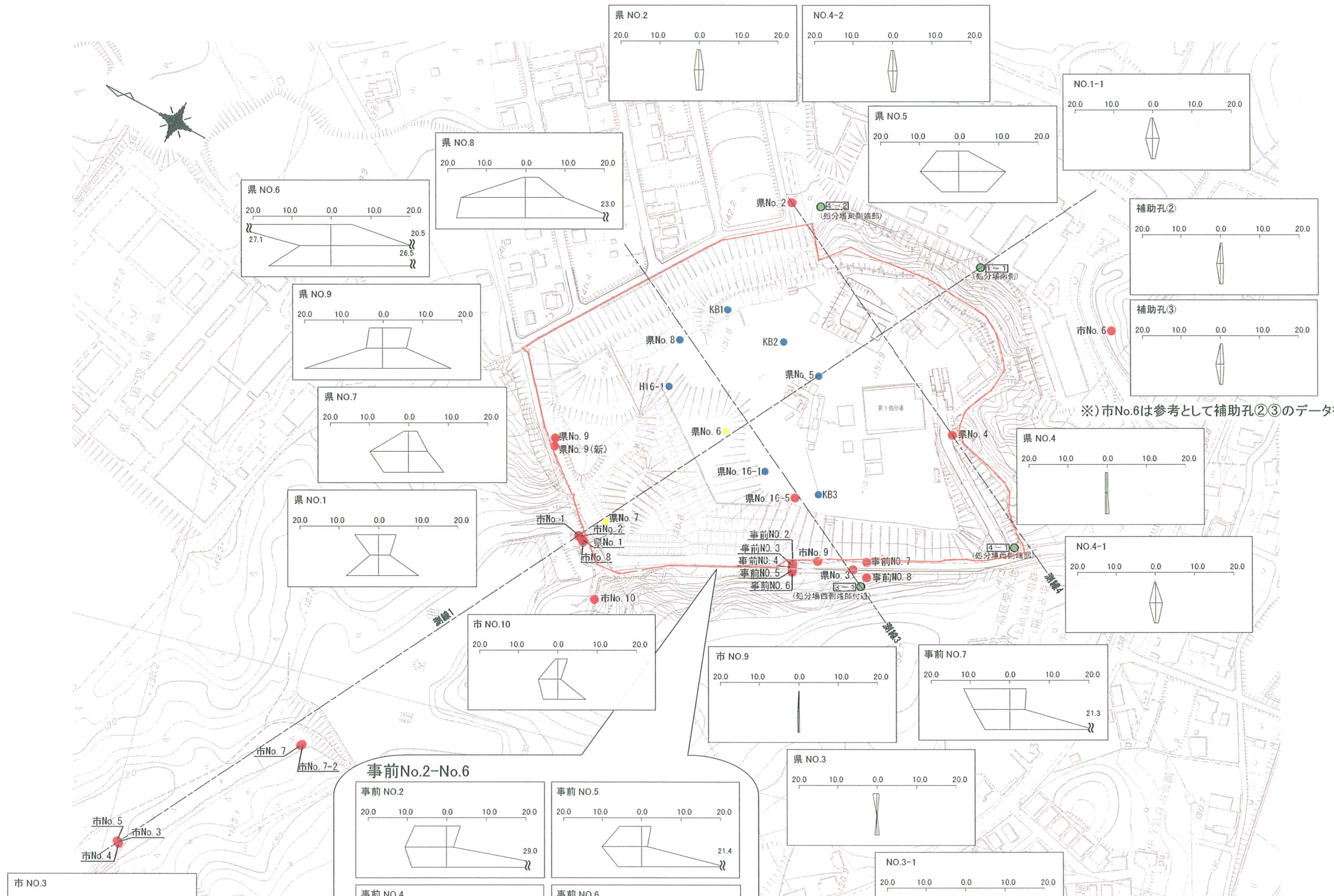


表-1 地下水分析結果一覧表

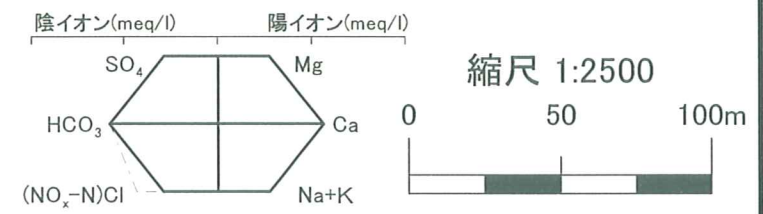
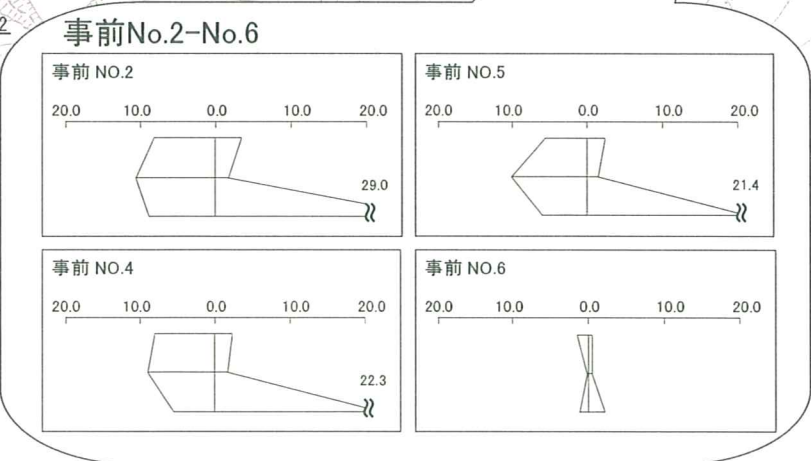
地域分類	観測井戸	帯水層区分	ヒ素	ヒ素 (ろ過)	総水銀	総水銀 (ろ過)	鉛	鉛 (ろ過)	カドミウム	カドミウム (ろ過)	ホウ素	フッ素	シス-1,2-ジ クロロエチレン	トリクロロ エチレン	テトラクロ エチレン	ベンゼン	COD	ダイキシン類 (pg-TEQ/L)	ダイキシン類 (ろ過) (pg-TEQ/L)	PCB	SS
処分場南側	No.1-1	Ks1+Ks2	0.005	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.7	—	0.16	不検出	7
処分場 西側端部付近	No.3-1	Ks1	0.001	ND	ND	ND	0.005	ND	ND	ND	ND	0.24	ND	ND	ND	ND	2.0	—	—	不検出	230
		Ks2	0.038	0.018	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.70	0.59	ND	ND	ND	ND	28	—	0.17	不検出	33
処分場 西側端部	No.4-1	Ks1'	0.003	ND	ND	ND	0.008	ND	ND	ND	ND	0.13	ND	ND	ND	ND	3.2	—	—	不検出	480
		Ks1+Ks2	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	1.0	—	0.16	不検出	100
処分場 東側端部	No.4-2	Ks2	0.003	0.003	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.11	ND	ND	ND	ND	1.0	—	0.16	不検出	1.0
地下水環境基準値 (安定型処分場維持管理基準)			0.01		0.0005		0.01		0.01		1	0.8	0.04	0.03	0.01	0.01	40	1	1	検出されないこと	
定量下限値			0.005		0.0005		0.005		0.001		0.1	0.08	0.004	0.002	0.0005	0.001	0.5	0.01	0.01		

表-2 地下水分析結果一覧表

地域分類	観測井戸	帯水層区分	六価クロム	ナトリウム イオン	カリウム イオン	カルシウム イオン	マグネシウム イオン	塩化物 イオン	硫酸 イオン	炭酸水素 イオン	硝酸 イオン	亜硝酸 イオン	アンモニウム イオン	りん酸 イオン	pH	電気伝導 率 (mS/m)
処分場南側	No.1-1	Ks1+Ks2	ND	12	2.9	34	2.4	11	21	110	1.5	ND	0.07	0.077	7.3	25.7
処分場 西側端部付近	No.3-1	Ks1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.3	11.4
		Ks2	ND	230	50	69	18	160	150	600	ND	ND	11	0.53	8.0	142
処分場 西側端部	No.4-1	Ks1'	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6.6	10.6
		Ks1+Ks2	ND	12	4.7	34	0.4	11	16	100	1.7	ND	0.07	0.088	10.4	21.0
処分場 東側端部	No.4-2	Ks2	ND	12	2.6	23	3.6	11	24	76	1.5	ND	0.13	0.099	8.0	19.0
地下水環境基準値 (安定型処分場維持管理基準)			0.05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
定量下限値																



※)市No.6は参考として補助孔②③のデータを付す



2. 処分場内の調査結果速報について

(1)ボーリング調査結果（廃棄物と地層構成）

平成 19 年度調査では、平面図に示す 12 箇所で行う予定にしており、現在までに 6 箇所終了している。

その中間結果をまとめると以下のとおりである。

- ・ 調査を終了した 6 地点および現在作業中の 3 地点のうち、E・3 地点以外の調査地点では明らかに廃棄物が確認されたが、E・3 地点は廃棄物が盛土に点在する程度であった。
- ・ 調査で確認された廃棄物の主なものは、ガラス片、木片、プラスチック片、コンクリートガラが主体でゴム片、金属片なども確認されている。
- ・ 確認した廃棄物で特異なものは、No.D・3 の GL・1.0m で乳白色の焼却灰らしきものが確認された。焼却灰らしきものは、B・4,D・2 でも少量混入しているのを確認した。現在、焼却灰かどうか分析中である。
- ・ No.A・2,No.B・2、No.D・3 では、黒色の油らしきものが混入しており、臭気も強い。
- ・ その他に No.B・4,No.C・3、No.E・2 は、臭気も強い。

(2)孔内ガス測定結果

ボーリング孔内で深度 3 m 毎にガス測定を行った。その結果は、結果平面図として整理した。

- ・ 調査を終了した 6 地点および現在作業中の 3 地点の 9 地点すべてでメタンガスが検出されている。
- ・ メタンガス濃度が高い地点は、No.A・2 と No.D・3 地点で爆発限界である 5%以上を示す深度があり、No.B・4,No.C・3,No.D・2 地点でも作業上の作業中止基準濃度の 3%以上と比較的高い濃度を示している。
- ・ 二酸化炭素は、現在調査中の 9 地点中 6 地点で検出されており、その中でも No.B・4,No.C・3、No.D・2、E・2 の 4 地点は比較的高い濃度で検出されている。
- ・ アンモニアは、No.D・3 と No.E・4 で検出された。濃度は 2~11ppm である。
- ・ VOCs 関係の項目（トリクロロエレン、テトラクロロエレン、シス-1,2-ジクロロエレン、ベンゼン）の 4 項目は、現在調査中の 9 地点全てで検出されていない。
- ・ 硫化水素は、現在調査中の 9 地点全てで検出されていない。

(3)孔内温度測定結果

ボーリング孔内で深度 3 m 毎に温度測定をガス測定に併せて行った。その結果は、結果平面図として整理した。

- ・ 現在調査中の 9 地点での、孔内温度は 18.1~32.0℃を示している。定常地温測定孔の孔内温度が 21.5℃程度（曇天時測定）であるので、定常地温よりも最大で 10℃程度高い。
- ・ 最も孔内温度が高い地点は、No.C・3 地点の GL・12m で 32.0℃を示している。C・3 地点は他の地点に比べて全深度で孔内温度が高い。
- ・ No.D・3 地点の孔内温度は 18.1~24.4℃と定常地温に近い温度を示しており、他の地点に比べても相対的に温度が低い。
- ・ 現在調査中の地点において依然高い孔内温度を示している地点が一部で見られるものの、全体的に定常地温に近い温度を示している。

R D 最終処分場調査計画平面図 S=1:1000

凡例

- 敷地境界線
- - - 処分場許可範囲
- ▲ ボーリング調査地点 (廃棄物調査, 7地点)
- ボーリング調査地点 (地下水調査・地質調査, 5地点)
- ボーリング調査地点 平成18年度調査分 (地下水調査・地質調査, 4地点)
- 既往ボーリング調査地点
- ▲ 既往坪掘調査地点 (ガス・土壌分析)
- 既往坪掘調査地点 (土壌分析)
- 深掘是正場所

